

第8回備前市歴史文化基本構想策定委員会会議録

日時：平成28年3月9日（水）10：00～12：00

会場：備前焼伝統産業会館 3階

1 開会あいさつ

課長 あいさつ

委嘱状交付

委員長あいさつ

上西委員長 2年前にこの構想がまとまり、もう既に2年も経ったのかと思う。昨年の春に閑谷学校が日本遺産に登録されましたし、その後、備前焼を含めた六古窯も日本遺産を目指して活動されているようでございます。また文化財や文化につきましても日に日に変わっていくのが常で、文化財はだんだん壊されたりという事も、動いていくという事も当然ありますので、今日は事務局の方から2年前以降に起こったこと、それから問題点等出していただきまして、委員の先生方にそれに対するご意見を出していただいて今後の市の方針にしていただけたらと思います。本日は十分審議をしていただきますよう、よろしくお願ひします。

2. 報告・協議

上西委員長 事務局から①地域文化資源を総合的に活用するためのメニューと現況報告について説明してください。

事務局 本日の会議ですが、本来であれば、毎回この会議のあと、もちろんオブザーバーの方々がおられて、さらには一般の方もおられて、そのあとワークショップをするというスタイルでさせていただいているのですが、本日につきましては、2年ぶりという事になると、来年度から本格的に改定作業に移る前段の実務的な検討をさせていただく会議という位置づけで開催させて頂けたらと考えております。従いまして、先ほど委員長のお話にありましたように、この2年間にあったこと、この歴史文化基本構想の中に53頁に平成25年度からどういうこと課題として取り組むかという具体的なメニューを掲げております。そのメニューがどれくらいできているのか、またできていないのか、そういったことの検証も含めて進めさせていただけたらと考えております。まず①について53頁をお開きの上、先般郵送させていただいた資料に様式は少し異なりますが、横長の資料を見比べながら進めさせていただけたらと思います。まず、大きく10項目ほどあるのですが、それぞれについて簡単に概要を説明させて頂けたらと思います。平成26年度末には、閑谷学校を含む4資産とそれぞれの資産を構成する複数の資産で日本遺産の認定を受けるという事もありました。現在は六古窯という事で日本遺産の認定を目指しているという状況もあります。そういう中で、歴史基本構想というのが、いま少し光が当たってきている部分もあります。と言うのも、日本

遺産の認定を複数組み合わせるのではなく、単独でする場合は歴史基本構想を策定していないといけないですよ。または、世界遺産の候補物件を持って運動しているところじゃないといけないですよとか、そういうことで日本遺産に向けてのエントリー要件になってきています。そういう流れの中で今実際に策定しようと動きが始まっているのが、倉敷市、津山市、笠岡市でもあるようです。少し話はそれてしまったのですが、メニューの中でどれくらい進んでいるのか、進んでいないのか確認をしていただきたいと思います。

- 事務局 53頁と資料の（1）から（10）の項目について一覧に基づき説明。
- 上西委員長 できていないこと、まだ手がついていないことなども問題点なんでしょうけども、できているものもあり、少ない人数で盛り沢山な目標を掲げられているのでなかなか大変なんでしょうけども。委員の先生方には特にこれは遅れているぞとか、この辺を特に力を入れたらどうかとかいう事も含めて、何かご意見がありましたらおっしゃっていただけたらと思います。
- 岡本委員 寺社との連携のところで正楽寺、長法寺、松本寺の現地見学会の開催をされていますが、いいなあと思いましたが、参加者はしっかりありましたか。
- 事務局 正楽寺さんはかなり多かったです。檀家さんへ流された分と別枠で文化財係が流した分とで正楽寺さんの見学会はかなり参加者がありました。松本寺さんの場合は、松本寺学術検討委員会を作られて、改修にあたってどういう風なことがわかるか、そのわかったことをどう活かすかという事を最初から組まれて、ここは結縁灌頂をした道場だから、将来的に復元してその空間を再現するのがこの補助事業の目的だというかたちでされたので比較的、研修会も参加者が沢山来られたりしていました。
- 上西委員長 だいたい何人ですか？
- 事務局 正楽寺さんは何回もしたので、山門と鐘楼と1回につき午前午後としているので、1回が100人とかという単位で来られているので。1回は建築学会ですかね、建築を勉強している研究会があってそことタイアップして、文化財係もバスを準備して何十人も来られました。長法寺さんは多分30人くらい。松本寺さんは2回くらいしたので、1回が100人弱くらいですか。
- 上西委員長 だいたい地元の方でしょう。
- 事務局 地元の方と文化財関係者の方と文化財保護審議会の研修もそこでさせていただいたりしました。
- 岡本委員 やり方によってはしっかりと集まってこられるんですね。
- 事務局 そうですね。早めに日が設定できれば広報ができるだけ早めに行き届かせられれば、興味ある方はたくさんおられますが、なかなか東備エリアから外への情報が出にくい。山陽新聞等で扱っていただく場合も、やりますよという情報を扱っていただけない場合も多々あるので、その情報の発信が難しいということがあります。最近、岡山県文化財課が県のホームページでそういうイベントを吸い上げて公開しますよというシステムを作られているので、それにも載せてもらうようにもしていますが、セッティングする時間が非常に

- 短期間なので、なかなか行き届いていないという状況が現状です。
- 岡本委員 この資料を見せていただいて、松本寺のに行けばよかったですなど後で思ったことなんですが。先ほど話をきいて、やっぱり専門家の公開の視点というのか、あつたりすると、なお興味が高まるのではないかと思います。
- 事務局 松本寺さんの場合、非常に面白いやり方をされていて、例えば天井の龍の絵を直されるというか、かなりくすんでいるのですが、それをクリーニングする時に、クリーニングの仕方を技術者が説明しながら「こうやってやるんですよ」とか、建具に二十四考を紙に書いてある絵が沢山あるのですが、それがボロボロになって剥落しているのを復元の方法まで全部細かく説明して、こうゆう空間が再現されますというような説明会をしたので技術者がじかに話されるので参加された方は非常に興味を持って聞かれていたように思います。多分、今後も結縁灌頂とはどういった宗教行事なのかとか、そういう話を進めていくと思います。何回かまた設定されると思います。
- 上西委員長 100人も来たら駐車場はどうしたのか。
- 事務局 松本寺は広い駐車場があります。正樂寺もむちやくちや広いので、正樂寺の方は施工業者が準備してガードマンまで出していただいた。
- 岡本委員 こうゆう見学会に参加することで、檀家さんなり地元の人、どういうか誇りというかそういうものに繋がっていくのではないかと思って、ぜひしっかりとPRをしてくださったらと思います。ボランティアガイドの団体なんかにも情報が流れていくと、の方たちはすごく関心が高いというか興味が高い人が多くて、いろんな所で顔を見るんですけど。
- 事務局 ボランティアガイドの方にも情報を流すのですが、他のイベントと結構重なるので、どっちに行こうかと迷われるようです。
- 狩山委員 10番の情報発信の所なんですが、ホームページの更新なんかは、それぞれの施設ごとで更新しているのですか。
- 事務局 それぞれの施設ごとでもできますし、職員一人づつに配布パソコンがありまして、そのパソコン上で出来るようになっています。それを修正をかけたり、充実させたら決裁を所属長にもらって公開されるというシステムになっているのでそれぞの所で出来ます。
- 狩山委員 気軽に更新できる状態ですか。
- 事務局 そうですね。
- 狩山委員 去年、歴史民俗資料館の古地図展の紹介がテレビであって、テレビだけだとすぐに終わってしまうので、すぐにホームページを見たのですが、多分そういう使い方をする人、何かちょっと知識を得た時にもうちょっと詳しいことはホームページで見ようという使い方をする人は多いと思うので、できるだけホームページの方で詳しい情報を流して、さらに先ほどのよろず相談所みたいなものもホームページ上でいくらか流しておいてもらうと自力で解決できるので、ありがたいなと思います。
- 倉地委員 どこから入るのが問題なんですよね、ホームページっていうのは。例えば

文化財一覧を探そうと思ったら、多分、市のホームページにいって、備前市教育委員会を押して、文化財課を押して、文化財一覧があるというように順番にだんだんといかないといけないですよね。例えばこうゆう事業をやっているんだとすると、こういうのは、もっと早い段階でアクセスできる、つまり備前市のホームページにいったら、その中のどこかにバナーがあって、ぱちっといけるような。そうゆうのが欲しいですよね。慣れている人はいいが、見つけ出せないことがあるんですよね。

事務局 備前市のホームページにも真ん中にWhat's Newというのがあり、一番新しい項目で出るコーナーはあるのですが、どうしても役所の組織をたどつていくような形でしかたどり着けないようなことになります。ただ、歴史民俗資料館、埋蔵文化財管理センターの方は単独でホームページを運営しています。施設ごとでそれぞれ違うので、なかなかうまくリンクが貼れていない状況もあります。できるだけ速やかに更新はするのですが。

上西委員長 ホームページの方はいくらか更新が出来ているのでしょうか、これは2年で変えないといけないことが出てきているが、どうするのですか、これを刷りなおすのは大変でしょう。

事務局 こういうペーパーベースというよりも、PDFか何かでネット上にあげるという形の方がいいのかなと思いますし、どの時点でどのような形にするのかという事も今後の検討になるかと思いますが、多分もうペーパーベースと言うのは。。。ただ、PDFでアップしたとしてもかなりの量になるので、アナログベースのこういったペーパーも必要だという事も考えられるので、その辺も配慮が必要かと思います。

上西委員長 こういったペーパーレスとは言いながら、図書館なり他の行政機関から欲しいと言われたら送るわけでしょう。

事務局 そうですね。

上西委員長 間違ったままで送らないといけないね、既に。貼るわけにもいかないし。どうしたらいいんですかね。全然、例は違いますが、備前焼の作家名鑑なんかも人間国宝が変わった時点を出して、既に去年の秋に2冊目が出ましたが。これは予算がついて時間をかけて作るわけで、どうしたものですかね。

事務局 この時にも簡易製本で10万円くらいの予算で、表紙は印刷会社で刷ってもらい、中身は市のコピー機で出力したんです。印刷会社で簡易製本してもらい予算的には10万円くらいだったのですが、逆にコピーマシンの方がかさんでしまいました。多分、次回どうしてもペーパーベースでという事になれば、PDFをホームページ上の貼っておいて、それを見ていただいてペーパーがいるという場合は、市の方で出力を簡単に行えるキットがありますので、それでお送りするという形がいいのかなと思います。

上西委員長 カラーコピーで思い出しましたが、私も職場のない人間で、職場のコピー機を使うことが出来ないんで、何かあればコンビニでコピーするのですが、この前カラーコピーしたら1枚80円もして、前は50円だったのに値上がり

していたのですね。けっこう何枚もコピーすると小遣いに響くんですよね。たちまちこういうものを、さきほどの倉敷市、津山市や笠岡市も歴史文化基本構想に手をつけたということで、欲しいと言われるでしょう。

事務局 多分。

上西委員長 間違っているものをあげるのはできないから、ホームページの方で見てと。

事務局 そうですね、一応、平成26年3月時点の構想ですよということで、差し上げるという事で。

上西委員長 事務局が今回読んでおいてと青い付箋を貼ってくれていたところだけでも読んできたのですが、もう既に変えた方がいいところがある。三石の煙突がなくなったりとか、どんどん変わっていってますよね。

事務局 そうですね。

狩山委員 倉敷市としては高い目標を掲げといてもらったほうが、それにより近づけた構想を練ろうとしますよね。

上西委員長 専門家が課長とかにいたら、まだ県内の全てが分かっていたら出来るのですがね。普通、市町村指定から拾い上げる方法をとりがちなんですね。

事務局 そうですね、今は。

上西委員長 そうすると、市指定、町指定がなければ県指定も生まれないという、気の毒な感じですよね。

事務局 そうですね、最近ここ数年こういう風に順番をおって上げなさいというような形になってきています。ただ、なかなか市の指定をかけて、あげるのがしんどくなっていますが。

上西委員長 そのほか①でございましたら。

倉地委員 有形民俗調査っていうのは、窯業用具？

事務局 生産用具です。

倉地委員 生産用具というものをやっているのですか。例えばどういうものですか。

事務局 はい。例えば、ろくろであるとか、備前焼を焼くときに窯に炭を落とす鉄の棒みたいなものとか、要するに、窯元さんが近代に使っていたいろんな道具、例えば石膏型とか、ありとあらゆる生産用具を調査をしてということです。

倉地委員 現用のものですか？過去のものですか？

事務局 過去のものを中心なんんですけど、もちろん現用のものもあるんですけど、原則、昭和20年以前のものを中心に、その中にはひょっとしたら、明治期に使われたものの中に江戸時代のものも混じっていたりするんじゃないかなということで、例えばへらとか、そういうものも含めています。上西先生にもその調査指導に関わっていただいているます。

倉地委員 ものすごい量では？

上西委員長 例えば、現代の作家にそれを尋ねると、もうそれは何でもみんな使いますから、台所用品まで。そういうものは省いて、ある程度の時期で区切らないとどうにもならないという事で。1回だけ会議を去年した。膨大ですよ、そりや石膏型だけでも、ものすごい。

- 事務局 悉皆調査というか、どんなものがどの窯元さんにどれだけあるかとか量的把握をして、その中で資料化する図化する写真化するものを選んで、3年後に報告書を出すという事になります。報告書の方がかなり論考を入れた報告書を作る予定で、それを基に次の段階を目指そうという方向です。ただ、膨大にあるので、どれを選んでどうするかっていうのが、これから課題になっています。特に明治期のものについては、備前焼で統計だって資料化された例と言うのは資料的にも少ないようなので、そのところを担当がぜひやりたいということで、今年度から3か年計画で進めています。
- 上西委員長 3年で報告書も作るのですね、大変ですよ。
- 倉地委員 それはそれでいいわけですけど、もともと民俗調査っていう風に上げてたものをそうゆう有形のものじゃなくって、無形？
- 事務局 無形も含めて全てなんんですけど。
- 倉地委員 無形も含めてやらなくちゃいけない。やっぱり調査は、それをして形が残って、それが指定になってみんなに知られて、さっき言わされたように地域の誇りになって、そういうこともあるので、やはり調査は一番最初にきっちりやっておく、それを系統的にやっていくってことはすごく大事だと思うので、限られた人数で作業していくわけですが、事務局は大変かもしれないけれども、それより専門家がそこに入つてやっていくという事であれば、その人たちが動きますので、ある程度計画的に調査をスケジュールを組んでやつていくのが基本になると思うので、そのところ、今とりあえずこれで動いていますけれども、少し次のことも含めて段取りを考えて統計的な調査を一番ベースにやってほしいと思います。
- 事務局 確かにこのメニューは、てんでばらばらという印象があるので、きっちりどの系統のどの調査をやるとか、しっかりとしたフレームを組んでいけばいいのですが、来年度以降の体制がどうなるかわからないので、その中でどうゆうスタッフがどの事業に関われるかというフレームの組み方も必要になるので、今の時点ではなかなか、体系立ててというのが出来ていないのが現状です。
- 上西委員長 どこにもあるというよりも、備前市だからあるものを中心に据えた方が、民俗資料館が各地にありますけれども、「あれか」というように知っているから帰ってしまう場合もあるんだけれども、その特徴的な産業に関わる道具だとか、児島湾だったらうなぎかきの道具だとか、そういうものだったら見たいなと思うのだが、やはり視点を絞って、全部する必要はあるのですが、将来につながるというか全国的にも誇りになるようなもの、先ほどの備前焼の生産用具だとか、日本遺産に関わるものとか、そうゆうのを中心において少ない人数でやつたらどうかなと個人的には思います。
- 事務局 調査はするんですが、その後、例えば生産用具だと膨大に資料が出てきて、適切な管理状況で保管して次の段階ということらしいんです。そうすると保管場所とか収納場所を確保しないといけないので、そういうことも含めて、

どの調査をするかという選択を事前にしておかないと大変なことになる場合もありますし、その辺も来年度以降の事業計画の中でハード的なものも含めて、うまく摺合せをしていかないといけないというのが現状です。

上西委員長 有形資料といいながらも、それに伴う技術とか、無形が伴うので説明には必要なわけでしょう。

事務局 先ほど申し上げたように、来年4月以降、もう1回フレームをしっかり組み直したものを次回の会議の時に総合目録作りについては、例えば民俗調査の中で、有形民俗は平成27年度から平成29年度ですよとか、それ以外の無形民俗のこの分野は何年から何年までやりますとかゆう風な組み方でもう少し見える化して提示できればなと思っています。今の時点では来年度以降のこともあるので、具体は難しいかと思っております。

上西委員長 だいぶ意見も出していただきましたけれども。

倉地委員 史跡整備事業というのが平成29年からあるのですが、ここは史跡、平成27年もあるが、これは公有化の話ですか？

事務局 はい、公有化が現在も進行中でして。

倉地委員 これは、公有化が平成28年度まで？

事務局 はい、公有化は平成28年度までかかる。

倉地委員 公有化が平成28年度までかかる、公有化が終わってからそこの部分を整備するのか。

事務局 そうです、平成29年度以降に整備するという、ただ公有化の方についても追加指定とかいうことで指定地が拡大した場合は、並行して史跡整備事業も走る場合もあるという形になるので、今の段階では、公有化したものと史跡整備という形での見え方です。

倉地委員 整備事業っていうのは整備計画みたいなものを作るの？

事務局 史跡伊部南大窯跡整備基本構想というものがありまして、これに基づいてやっています。

倉地委員 その構想があるから、それに沿ってやればいいのですね。

事務局 はい。ただ、この構想が平成17年にできておりまして、一時期ずっと、ほとんど進んでなかつたのです。この構想を立てた時点から、時間の経過もあり、この構想のプラスα整備活用計画を作る必要があります。フレームが結構変わってきてるので、これはこれとしておいて、さらに計画を作りながら整備事業に向けてというような流れになっています。

上西委員長 具体的には看板を立てたり、公園化したりですか？

事務局 今、南大窯跡が見えてますが、具体的には、ここにある下側の絵のような構想を持っておったんですが、この構想を作る整備委員会というのが別にあるのですが、今、整備の流れは少し方向が変わってきていて、こういった構造物とか案内表示とか遺構表示を派手にするのではなくて、自然の景観がいいですよというモードも最近あるようなので、景観に配慮したごく小規模な整備と保存管理の間のようなところに持っていくやり方もあるようです。あ

と、ここにガイダンス施設をその手前に作る予定になっているのですが、これについても何億というお金がかかるような話なので、例えば既存施設の活用とか、そういったことも含めて検討していくという事で、平成28年度は3回整備委員会を開催して、計画を史跡整備にもつていこうという話になっています。平成29年度を目途に次の段階ということなんかも考えていこうとスケジュールにはいっているところです。

上西委員長 どこ行っても同じようなことを言っていますが、岡山県も備前市もそういう施設が遅れていて、どこの六古窯の土地でも、それ以外でもすごい施設が作られているが、それを言っても仕方がないですが。

岩崎委員 北大窯跡も西大窯跡も含めた計画ですか？

事務局 そうです。この史跡伊部南大窯跡整備基本構想は、南大窯とはうたっているのですが、この時点で既に北大窯跡も西大窯跡もこの構想の中にどういう整備をするかうたいこんでいます。というのが、この時点で将来的に三つの窯を備前陶器窯跡ということで国の指定に持っていくという流れが出来つつあった時期なので既にこの構想の中に盛り込まれています。いま、次の段階の話は、西大窯跡を中心とした話で、その事業が動く中でこの南大窯跡も動いていく形になるかもしれません。

上西委員長 下側の広場は駐車場ですか？

事務局 はい、これは駐車場で西大窯跡の当時の計画では、ここに駐車場があって、ここに実際に焼く体験ができる窯を復元するという構想を持っていました。

上西委員長 今は水田ですか？

事務局 今は田んぼです。来年度以降は西大窯跡を中心にいろんな事業が展開したり、南大窯跡についても、今だいぶ景観が落ち着いてきていますが次のこともスケジュールに乗せてきつつあり、ただ、こちらのスケジュールもかなりきつくなっていますので、なかなか前行きしないかもしれません。

上西委員長 西大窯跡まで観光客は足をのばしてくれない、なかなかね、北大窯跡や南大窯跡は電車で来ても行けるけど。

岡本委員 いま足をのばす、のばさないという話があったですが、地図も中に入っていましたが。なかなか面白いですね。

事務局 はい、伊部まち歩きマップというものを作りかけているのですが、職員で絵の得意な職員が手書きで全部書いていったのですが、マップの下に試作版となっています。まだどこにも置いていません。と言いますが、実は、こちらで一方的にこんなマップを作ったらしいだろうというのを勝手に作ったんです。例えば備前中学校の絵を描いてみたり、個人の家の特徴的なものを描いたり、ランドマーク的なものを、職員が歩いて写真を撮ってここに描いています。勝手にした作業で、それをもとに勝手に描いた先の家に行って、「出していいですか」というアンケートを出しまして、まとめて修正版を出そうという事です。さらにボランティアガイドの方にもこの地図を見ていただいて、どこが良いか悪いかを聞きましたら、かなり意見がでまして落ち着かな

い状態になっていまして、かなり修正する点がでていて、来年度前半で修正をかけてバージョン1として出せねばと考えています。描いたお宅にお邪魔すると、比較的好意的に受け取っていただけたんですが、ボランティアガイドの人たちはボランティアガイドの視点があり、どこをどういう風に案内するか、この角を曲がったらこうゆう建物がある、そういう視点で見られているので、参考になる意見が多いです。アンケート結果をダイジェスト版にしたものと今日の追加資料で置かせてもらっています。そういった作業も歴史文化基本構想という大きなうたいではないのですが、マップ作りということで昨年細々と職員がやっておりました。

上西委員長 食べものやとか喫茶店が抜けている。

事務局 そういう意見や横断歩道とか病院とかそういう基本的なものが抜けているという指摘をかなり受けました。一番問題なのは、道が途中で切れていることと、イラストが同じ方向からの俯瞰ではないので統一感がないとか、指摘を受けました。

岡本委員 声もしっかりと上がってきていますね。

事務局 はい、それから飲食店も例えばA飲食店を入れてB飲食店を入れないというのは、なかなか難しいので、その辺への配慮とか個人商店名を入れるのか入れないのかとか、その辺がどうするかなというところです。ガイドする方にとっては入れてほしいという意見があります。

岡本委員 我々もまち歩きのワークショップをしましたが、とても楽しかったし、健康のことを考えて歩くことが非常に多くなっているので、こういうのがあると、裏に説明もあるし、こんなのを見ながらずっと探して回っていけるので、良いアイディアだなと思って見させてもらいました。

上西委員長 仮に出来たとして、販売するわけじゃないでしょう？

事務局 販売するのではなくて、無料で配布と言う形で、バージョン10くらいになると完成版かなと思っておりますので、とりあえず来年度予算でバージョン1を出す印刷費だけは当初予算で入れてもらっています。

岡本委員 いま伊部が出来ていて、私たちがそれぞれのゾーンを歩いた、それぞれのゾーンにこんなマップが発展していくといいと思う。

事務局 そうですね、今回は伊部地区ということで作っているので、これをパターンとして、というのもその中に含んでいます。一番は絵を描いていただける方というのが、どうしてもキーになる方なので、ボランティア的にしていただける方を探すのが難しい。イラストを描くのにかなりの時間を必要なので。

岡本委員 感心したのが、このマップと子供を視点に置いたワークショップです。例えば埋蔵文化財管理センターでいろんな古いものが保管されていると思いますが、なかなかそこへ興味がいたり、足を運んだりという事はないけど、ワークショップで、そういう関心を小さい子供のうちから芽生えさせていくという試みは、貴重だなと思って。すごい工夫をされたなと感心しながら見ていただきました。歴史民俗資料館もしていますね。沢山どちらの施設も

- されていて。キャラクターがあつたりして。
- 事務局 職員がネーミングなんかも子供向けに考えています。歴民にいる職員がワークショップとか普及啓発が非常に得意な分野で、そういういた研修を受けに行ったり、大学でもそういういた研修を受けて、子供向けのワークショップのパッケージをする能力に長けた職員なので、その職員が中心に歴民のワークショップは動いていますし、埋文はイラストを描いた職員とかほかの職員が話をしながら、こんなワークショップしようとかいうことで行っています。子供向けのものは小学生とかには教育委員会の連絡ボックスにて投げかけているのですが、まだまだ「こんな施設があったのかな」みたいな認知度が、特に埋蔵文化財管理センターなんかは低いので、出来るだけこのようなワークショップを使って認知度を高めて来てもらおうというようなモードを出せればという事でやっています。
- 岡本委員 埋文センターは、クレイアニメーションとか参加者はどうですか。
- 事務局 定員が割れる時もありますが、リピーターが割と多いので、淡々とやっています。
- 上西委員長 ①の会議になったのかよくわからないようになってきたのですが。時間も差し迫ってきたので、①はそんなところでいいでしょうか。
- 事務局 はい。ご意見ありがとうございます。
- 上西委員長 ②にいきますか。
- 事務局 前回、歴史文化保存活用区域というのを設定をしていなかつたので、将来的に設定をしていかないといけないということを、この冊子の1番最後の方にも書いているのですが、そのことを含めて、今後どういう風なスケジュールで歴史文化基本構想の改定作業を進めていったらいいかということをこちらの方へ表で作っております。こちらをご覧頂けたらと思います。平成29年度を目途に歴史文化保存活用区域、いわゆる七つの関連文化財群がありましたけど、そのなかで、どうゆう風に設定するのかというのが歴史文化保存活用区域ということになるのですが。その区域を設定するのを29年度を目途に出来ればという風に考えています。その設定をするためのいろんな積み上げをするための作業を平成28年度中に2回会議を開いて、その2回の会議の後、例年行っておりましたような会議についてはオブザーバー、関係者の方にもオープンにして、その後ワークショップをするというスタイルをとれればという風に考えています。平成30年度を目途に歴史文化保存活用区域の設定を含んだ改訂版を発行できればと考えています。31年度からは運用に入るという形になるスケジュールを考えています。従いまして平成28年度以降については年に2回くらいの会議とワークショップというようなことで進めさせていただけたらという風に考えています。更に、平成31年度以後文化施設の再編成ということを書いているのですが、これについては先ほど最初に申し上げた全序的に公共施設の再編成が検討される枠組みが来年度から動くようなので、そこの動向を絡めながらという事になるので、実際に

- 31年度からこうなるかという事は、また別問題で、今の段階では計画に項目としてあげておくという形になります。
- 狩山委員 現在の基本計画は平成29年度で終わるのですか。
- 事務局 そうですね。平成29年度で終わるという形になるので、平成30年度、本当は平成29年度末に改訂版が出来ればいいのですが、そこのタイムスケジュールがかなり前倒しできついかなと思うので、少し余裕を持ったスケジュールを組んでいます。
- 狩山委員 ほぼ1年空白の期間があるのですね。
- 事務局 そうですね、実際に平成26年度末にできたこの構想も26年3月に出来ていますが、この時には25年度の事業の項目が建てられているので、ここでも既に遅れていたというので、1年くらい遅れているので多少余裕を持たせた方がよいのかなという事で設定しています。
- 狩山委員 前回はかなり苦労して少しづつ伸びながら遅れていった気がするので。
- 事務局 前回はいろんな事情がありまして。
- 上西委員長 特にご意見等はありますでしょうか。
- 事務局 委員の先生方には2年2年の委嘱期間になっておりまして、こちらの方が早めに委嘱状の交付をさせていただけたら良かったのですが、27年度と28年度が一つの委嘱期間になっております。29年度と30年度がまた一つの委嘱期間になっておりますので、そういうタイムスケジュールで見ていただけたらと思っております。前回行った、日生、伊部、三石、八塔寺、閑谷学校以外の地域、例えば市役所がある片上とか香登、寒河、吉永総合支所の周辺とか行っていない場所へ行ってワークショップを設定して会議を開ければと思っているのですが、その辺はどうでしょうか。片上でこの構想ができた時にシンポジウムとかワークショップとか拡大版のシンポジウムとかできればと考えていたのですが、それもできていないということで、こうゆう構想があること自体の広報もできていないです。それもあるので片上でワークショップをして改訂作業の第1回目みたいなのを平成28年度させて頂けたらとは個人的には思っています。
- 倉地委員 良いと思います。行っていない所に連れて行ってもらう。
- 事務局 いま片上もまち興しじやないですけどいろんな事をされているので、3月3日周辺にはお雛様を通り周辺に並べられたり、11月にはアートイベントをされたり、たくさんされているので、そういう所へ行かせて頂けたら。スケジュール的には年2回という事になると少しきついかも知れないのですが。
- 岩崎委員 保存活用区域の設定は、それぞれのエリア全部にいっ�んにとりかかるのか、それともどこか推進しながらやっていくのですか？
- 事務局 実はこの歴史文化基本構想については昨年から補助制度が新たに運用が始まりまして、改訂作業についても補助対象になります。国の補助制度についても年1回全国規模の研修を全国から人を集めてやっています。その研修にも最近は行けていないくて動向がわからない状態です。保存活用区域の考え方

- もかなり動いているようなので、そういう情報をつかんでから動いた方が良いと思います。
- 上西委員長 今の件についてはよろしいでしょうか。事務局の方もよろしいでしょうか。
- 事務局 はい。（2）のその他の方にも入っていった形になつてしましましたが。
- 上西委員長 そうですね。また時間もありますので、全般的なことで結構ですので委員の先生がた何かありましたら是非よろしくお願ひします。
- 倉地委員 さきほどの保存活用区域とはどういうものでしたかね？
- 事務局 七つに関連文化財群を作りましたが、その中で例えば、この地域にはこういう風なソフト事業、ハード事業をしますよという区域を横断的に設定してあり、私もよく理解していないのですが、関連文化財群としては七つあるんだけど、実際に行政としてここへこうゆうモードで、こうゆう施設を充実させたり、ソフト事業をしますよという具体的メニューの落とし込みみたいな風に思っています。具体は、構想の53頁の活用するためのメニューとリンクするところはあるのですが、それがエリアとなって見えてくるのだと思います。例えば七つこうあって、その中の二つをまたがってこう保存活用区域ができるとか、そういうイメージを持っています。私のなかでもよく理解していないことを説明するのは申し訳ないのですが。
- 倉地委員 その作業が平成28年度から？4月からだけど。
- 上西委員長 平成28年度の後半に線が入っているけど。
- 倉地委員 項目の主要な課題には、それになる？
- 事務局 はい、そうですね。実際にそれを設定してしまうと、当初予算とかで予算を設定していくことになるので、かなりシビアな話になっていくので、そこはかなり慎重になる必要があるのかなと思います。
- 倉地委員 例えば、どこに、いつ頃に、何をやりましょうというような事も改訂版の中に書くということ？
- 事務局 そうです。具体書いていく形になるということです。
- 倉地委員 むしろ、その具体的な事業の進め方のような話は2年間の改定作業の中心になるという事ですか。
- 事務局 そうですね、具体的に。
- 倉地委員 さっきの話では、それは全部、予算がつく話になるの？
- 事務局 予算が全部はつくかどうかは、わからないんですけど、それを基に予算を要求していく形になると思います。そういう意味合いで、文化財行政のマスター・プランみたいなことを、この構想を言い始めた人が言われているので。
- 上西委員長 予算によっては、その中から一つか二つだけをまずやってということにもなるのですか？優先順位を決めて。
- 事務局 財政的な問題もあるので、こちらは、こういうメニューで行きたいのですがと、10挙げて、2しかつかなかった、あるいは12つくとかいう事はあると思うので。しかし、予算を計上するときに、こうゆう構想に基づいて出していますという形になっていくと思います。歴史文化保存活用区域というの

をうまく設定しておかないと、アンバランスになるので、うまく歴史文化保存活用区域を複数設定して、全部がうまくかかるようにしておく必要があるのかなと思います。どの地域からでも当初予算に計上していく理由が改訂版の中に書いてあるモードの歴史文化保存活用区域を作るべきかなと思います。ただあまりにも薄めすぎるとぼやけてくるので、そこをうまくテーマごとに切口を変えるとかすればよいのかなと思いますが、そこは関連文化財群という塊とどううまくリンクさせるかという話になっていくと思います。

上西委員長 補助金は国ですか？

事務局 補助金というのは、歴史文化基本構想を改訂版を出したり、新たに作るための補助金が出るという事で、実際の作業は単市であったり、例えば、国庫補助事業が利用できるものはそれを使うというイメージです。この構想でドンとお金がくるということではないので。それは日本遺産魅力発信事業の方になるので。

岩崎委員 先行事例が全国であるんでしょうね。

事務局 そうですね。モデル事業を20ほど、この構想の前までにされているので、そこで多分動いているはずなので、動いていないものもあるかもしれません。

岩崎委員 その辺がどうされているのか、わかつたら。

事務局 はい、情報を集めてみます。

上西委員長 佐渡島があつたね。

事務局 はい、ありました。

倉地委員 今の話に出ましたが、日本遺産の方で何をしているのかっていうことを、ちゃんと調整して、日本遺産の方でやってくれることも、この議論の中にベースに載せられるように、ちゃんとやっていく必要がありますよね。

事務局 そうですね、そうしたら次回の会議には日本遺産の担当者にも出席していただきたい。

倉地委員 この構想の中のここに位置づきますよ、という話になれば有効ですよね。お金がとにかく、うちは無いので、連携して実現していくといいですね。

事務局 そうですね、関連文化財群でこちらもひとつ世界遺産の設定をしているというか、当初のこの構想の位置づけ自体が世界遺産にならなかつた時の次のステップを踏むためのという位置づけで始まったことなので、そういうものとものすごくリンクしているので、先生が言われる通りだと思います。

上西委員長 教育委員会単独というのではなく、もっと市の他の観光課なり関係してきますよね、どうしても。

事務局 今回も教育委員会と事務局と委員の先生方の実務的な検討会という事なので、次回からは通常のスタイルに戻しまして、まち整備課やまち営業課や秘書広報課に世界遺産・日本遺産推進係がありますので、あと市民協働課の国際交流とか、関係部署の担当課長ないしは担当者に来ていただくように段取りをしようと思います。

上西委員長 事務局の方、今日の目的は達成しましたでしょうか。

事務局 はい、方向も見えてきましたし、どうゆう風に今後進めていけばいいかという事も。実際に歴史文化基本構想が出来たという事をあまりPRをしていないので、行き届いてはないとと思うのですが、実際に構想の中にあるメニューを淡々とこなしている期間だったという風に見ていただけたらありがたいと思うのが正直なところです。今後は、2年間の淡々とこなした期間をおいて、改訂作業をやりますという事を多くの人に知っていただいて、日本遺産とうまくリンクしながらやっていければというのが、思っている形です。

上西委員長 委員の先生方、何か言い残されたことはありますか？特になければ閉会させていただきましょうか。事務局の方からは何かありますか。

事務局 事務局の方からは特に用意はしておりません。

上西委員長 私の役目はこの辺で。

事務局 それでは、閉会という事で岡本副委員長より一言お願ひできたらと思います。

岡本委員 みなさま、お疲れ様でした。2年前にこの本ができた時に、すっかりこれで済んだという気持ちになってしまいまして、やれやれと思っていたところですが、また再度、会を開くという事で、なかなかこの土俵に入るために自分の気持ちを高めていくのに随分なんか元気が必要でした。でも、私はすっかり切れてしまっていたのですが、送られてきた資料を見ますと、その2年間に、今言われていたように、淡々としてきたとおっしゃいましたが、知恵を絞り色々な工夫をして取り組みをされてきた、人数は少ない中で、これをやっこられたと思いますが、事務局のみなさんに頭が下がる思いです。今日は2年間ブランクがあると、私もついていけないような感じがあったのですが、やはりそこが専門家の委員のみなさんは、さすがだなと思って感心しながら聞かせていただきました。それぞれの専門の立場から適切な質問やアドバイスをしてくださって、またこれが次の計画に活きていくものだろうと思っております。ありがとうございました。